

岩手郡医報

昭和57年 新年号
編集／発行 №.1
岩手郡医師会



七滝の景観

葛巻町田部下冬部から約1.5kmの地点にある滝で大小七段になっているところから七滝と名付けられている。写真の滝はそのうち最も規模の大きい三の滝で落差43mもある。

新緑紅葉とそれぞれ四季の移ろいにつれて違った景観を楽しませてくれる七滝には七滝大明神が祭られており、古くから「万難消滅」「縁結びの神」として知られている。

葛巻に住んでいながら訪れたのははじめてで写真はバカチョンカメラによるものだが11月末のことでの水量は少なく又氷柱もみられ冬の七滝も捨て難い味があった。足場が悪く平板な写真となつたが新緑紅葉の頃大版カメラで狙つてみたい被写体である。

(写真及び記 近藤)

新年の御挨拶

会長 上野精三

皆様新年御目出度うございます。1年、12ヶ月、365日と申しますが、過ぎてみれば余りにも早いような気がいたします。

過ぎ去った昭和56年を顧みて新しい昭和57年を迎えるに当たり一言ご挨拶申し上げます。

1) 北野病院事件、或は近藤病院問題、又この二者とは性質が異なるけれど皆さん御承知の例の徳州会病院問題等連日「マスコミ」を賑わした医療批判、或は真実と余りにもかけ離れた例の報道も年の後半より落着いて来た感が致します。

併し隣県の老人専門病院の倒産等またまた医療批判の材料が多くみられますことは、私共医療担当者として対岸の火災視せず、肝に銘じ、将来自己批判すべきは卒直に反省し、改むべきは速やかに改むべきではないでしょうか、如何でしょうか。

2) 古来より医師仲間は同僚を庇いすぎるといわれて居ります。特に最近医師は若くして開業し、一国一城の主となり、眞の社会と没交渉となるため、社会人としての要素に欠ける嫌いがあります。心すべきことばなりでしょうか。

3) 医師は余りにも自己中心主義に走り、他を省みない方がかなり多く見られます。同町村、近接町村の同僚が相携えて地域医療の為貢献すべきではないでしょうか。如何でしょうか。

4) 従業員の教育も医療遂行の一助として、なおざりに出来ない問題であると思われます。

これは私共の医療業務のため、又従業員本人のため、ひいては其の子孫の為にも必要ではないでしょうか。

5) 同一町村内の医師の融和こそ地域医療の向上のため必要なものはないと考えられます。先づ、他を批判する前、自ら反省する心掛けが必要と思われます。如何でしょうか。

年頭に当り不取敢必要と思わるゝ以上五つについて申述べました。

皆様新しい年に向って先づ御健康に留意の上、一致団結して地域医療の向上に邁進せらるゝよう御祈りいたし、且御家族従業員の方々のよい年であらせらるよう念願して、新年の御挨拶といたします。

以上

行事関係報告

1 県医師会関係

- (イ) 振動疾患診断の講習会が11月14日（土）午後1時より久慈保健所に於て開かれる。
- (ロ) 岩手県赤十字血液センターより「抗HBS人免疫日赤の供給及薬価基準収載に伴う取扱いについて」の文書送付せらる。
- (ハ) 医師会病院設立についての郡市医師会役員に対するアンケート調査を求められる。
- (ニ) 第6回北日本学童心臓病予防研究会が県医師会の当番にて11月15日開催される。
- (ホ) 11月29日県医師会館に於て日医医学講座開催される。当医師会の割当13名に対し、受講申込者は次の18名（敬称略）。
- 上野、早藤、工藤、熊谷（文）、摂待、遠藤、佐々木（国）、伊藤、長谷川、宮杜、宮沢、高橋（孝）、高橋（牧）、秋浜、八角、清水、土井尻、西島、その中欠席者は工藤、摂待、遠藤、清水、西島、又申込みなしで受講された方は、和田、迎藤、上田、土谷、佐藤（郁）、佐々木（久）でした。
- (ヘ) 11月28日産業医部会の総会と講習会が開催される。
- (ト) 11月30日予防医学協会に於て昭和57年度学童の検診に関する打合会開催される。
- 当会より秋浜理事出席す。詳細は次号。

2 郡医師会関係

- (イ) 会員の入会
班目健夫 八角医院に
- (ロ) 会員の退会（8月1日付）
加藤潔
松田壮正
武内健一 以上3名共八角医院より
- (ハ) 昭和56年度岩手県、岩手県医師会共同主催にて当医師会が担当すべき医学講座は、当医師会は其の面積甚しく広大なるため2ヶ所に於て開催の事と先の総会に於て決定せられ、西根会場及零石会場の2ヶ所で開催と決定す。
- (1) 西根会場＜運営委員＞
土谷邦彦 伊藤禎二
上田靖彦 岩手保健所次長
島信 西根町福祉課長
二瓶秀男 西根病院事務長
- 以上8名に委嘱し、運営委員長は土谷先生と決定す、其后西根町に於て2回運営委員会を開催し別紙の通り日程表を決定す。
- (2) 零石会場＜運営委員＞
宮杜亨 長谷川貫一

杉本圭士郎 盛岡保健所総務課長
秋浜晃 零石町保健課長
高橋牧之介 零石病院事務長

以上8名に委嘱し、運営委員長は宮杜先生と決定し、其后運営委員会を2回開催し、別紙日程表の通り決定す。

- (ニ) 健康講座の開催に伴い運営委員及講師を依頼したる各関係機関の上司に対し依頼状を委嘱状を発送す。
- (ホ) 11月20日午後6時より盛岡市一心亭に於て先に実施したる扁平足調査に於て各町村学校医代表中、整形外科関係の先生より第1回の中間報告あり。
- (ヘ) 12月3日健康講座の日程表を県医師会に報告す。
- (ト) 会員小原富雄先生には11月3日勲5等瑞宝章を授与せらる。30数年に亘り僻地の医療を守られたるその努力が叙勲せられたるものにして、小原先生、御家族の栄誉のみならず私共会員の栄誉であります。小原先生の今日までの御労苦に対し会員一同心から御祝い申し上げる次第です。
- (チ) 12月11日安代町安代ドライブインに於て理事・監事・県医師会各委員の合同協議会を開催、下記事項につき協議す。

- (1) 健康講座の件
(2) 次年度医師国保組合議員の件
(3) 1、2月及び3月の主要行事について
- (リ) 12月11日前記協議会に引き続き理事・監事・県医師会各委員に安代町内会員全員及び特に安代町当局並に岩手保健所の御参加を得て小原富雄先生御夫妻を御招きし叙勲の祝賀会を開催す。

会は宮杜副会長の司会にて、

開会の辞	近藤先生
挨拶並祝詞	会長
祝詞	安代町収入役殿
全	岩手保健所次長殿
謝辞	小原先生
乾盃	長老会員宇土沢先生

引続き開宴となり、一同小原先生の叙勲を讃え盛会裡に終了す。

尚安代町当局の温き御配慮並設営を担当せられました安代診療所伊藤禎二先生並に全診療所事務長さんに心から御礼申し上げます。特に安代美人をお世話下さった事務長さんには厚く感謝の意を表します。

- (ヌ) 本年は身体障害者年なるため当医師会もこれに参加のしとして県内養護学校児童の作成せるカレンダーを各医療機関に1部宛配布す。（1部1,000円 特別会計より支出す。）

以上

県民健康講座岩手郡零石会場日程表

主 催 岩手県・岩手県医師会

担当 岩手郡医師会

日 時 昭和57年1月20日～2月17日の5日間

会 場 岩手郡西根町田頭39の30の1 西根町センター

回	月	日	時	間	講 座 内 容	講 師
1	57.1.20 (水)		午後1:00～1:20	開講式 挨拶 岩手県保健所長 岩手県医師会会长		
2	57.1.28 (木)		1:30～2:20 2:30～3:20 3:30～4:20	(1) 上手に医師にかかるには (2) 消化器、肝疾患 (3) 脳卒中とリハビリテーション	上野 精三 上田 靖彦 上木 鈴	上野 精三 上野 精三 上野 精三
3	57.2.4 (木)		1:30～2:20 2:30～3:20 3:30～4:20	(4) 癌について (5) 糖尿病について (6) 心臓疾患	本山 渉 伊藤 植二 八角 正司	本山 渉 本山 渉 本山 渉
4	57.2.10 (水)		1:30～2:20 2:30～3:20 3:30～4:20	(7) 慢性アルコール中毒について (8) 急性腹痛 ①腸閉塞 ②結石症 ③虫垂炎 (9) 痛風について	岡本 彰 土谷 邦彦 森 茂雄	岡本 彰 岡本 彰 岡本 彰
5	57.2.17 (水)		1:00～1:50 2:00～2:50 3:00～3:50 4:00～4:20	(10) 老人病について (11) 小児喘息 (12) 成人病の食事について (13) 子宮癌の早期発見について (14) ねたきり老人と看護法について (15) 医師にかかるまでの救急処置 (16) 修了証書授与	二瓶 秀男 山田 わか子 丹野 芳節 鷲 信 桂(西田病院婦長) 熊谷 小次郎	二瓶 秀男 山田 わか子 丹野 芳節 鷲 信 桂(西田病院婦長) 熊谷 小次郎

月	日	時	間	講 座 内 容	講 師
1月21日 (木)			午後1:00～1:30	開 講 式	上野 精三
			1:30～2:25	上手に医師にかかるには	上野 精三
			2:30～3:10	心臓疾患について	秋浜 見
			3:15～4:00	慢性アルコール中毒	岡本 彰
1月28日 (木)			午後1:00～1:40	小児喘息	山田 わか子
			1:45～2:25	脳外科	根本 忠夫
			2:30～3:10	癌について	高橋 孝
			3:15～4:00	下肢と健脚	長谷川 貞一
2月4日 (木)			午後1:00～1:50	虫歯の予防	黒村 和雄
			2:00～2:50	急性腹症	杉本 圭士郎
			3:00～4:00	健脚を考える	佐々木 茂
2月10日 (水)			午後1:00～1:40	母子健康	田村 公一
			1:45～2:25	消化器疾患	宮沢 譲
			2:30～3:10	高血圧	宮杜 幸
			3:15～4:00	ねたきり病人の看護	牛石病院院長
2月18日 (木)			午後1:00～1:40	糖尿病	桂 泰鴻
			1:45～2:25	成人病予防	千葉 純子
			2:30～3:10	肝疾患	高橋 政之介
			3:15～4:00	終了式	

鳴呼あの頃（其の七）

上野精三

年只一度の弘前城の桜も散り終り今度は葉桜の頃となりました。私の青春の人生は不運の連続です。本当に役場の親切が足りなかったのか、親の甲斐性なき為か、果亦自分の努力の不足か、誰を恨んでも後の祭りです。医者になって数多青年多き中から不幸にして(?)甲種合格の烙印を押されたため今囚われの身となり所謂懲役10ヶ月、但し執行猶予とか真面目に務めても仮釈放なしの身で漸く4ヶ月を過ぎた訳です。

1) 絶世の美人に再会

岩手医専入学中近郷（全村に非ず）T村の白梅校（現盛岡二高）に通学中の絶世の美人（A子さん）あり。当時医專、高農否盛中、師範その他実業学校の上級生の羨望の的となって世にも珍らしい美人があるもんだと若人の話題の種となっていたA子さんでした。現在盛岡市内に生存中で70才位と思われます。6月の初めの日曜日、暦の上では初夏と云わるも、弘前では初夏どころではありませんでした。例によって外出した弘前市土〇町T旅館にて焼き魚、豆腐汁にて白い飯の昼食を終え弘前城の葉桜見学に出かけた訳です。弘前城の正門通りかかりたる際絶世の美人A子さんが私めがけて駆けより彼女曰く、「あら上野さん、あんた兵隊にひっぱられたの、御氣の毒に、可哀いそうね」と云う訳です。私も同情されまんざら悪い気持もせずに昔話つまり郷里、今の〇沢〇線の沿線の話をした次第です。処が彼女A子さんの側に大の男が夏「インバネス」黒メガネ、中折帽白足袋に奈良の大仏様の履くような大きな桐下駄にステッキの姿で「ニヤニヤ」して私と彼女の会話を聞いて居る訳です。よく見ましたらこの大男第1中隊長陸軍歩兵大尉Y・T氏です。小生青くなつて直立不動の一装用の敬礼をなし「上野候補生本日外出致して参りました。」と報告しまし

たら彼Y・T大尉曰く、「君そう固くならんでよし。」と云われ又私と親しげに話して居りました絶世の美人A子さんに対し「A子、その候補生を知っているのか」と話されました。A子曰く「郷里の近くの出身の方です。」と次にY・T大尉曰く「A子は僕の女房だよ。」とのこと、最後にY・T大尉曰く「君次の外出の際僕の家に寄ってゆっくり昔話をしなさい」とのことあり。この間約10分位、星三つの上等兵（実力でなった上等兵ではなく、期間が来た為与えられた上等兵）の階級の幹部候補生が路上で中隊長殿の御婦人に親しげにA子さんなどと言うて昔話をしたのが悔まれ、何れは明日第1中隊長に呼び出され、「人の女房と親しげに話したのは甚だもってけしきりからん」位の説教位あるものと覚悟した訳です。併し其の後何事もなく、営庭で遭って敬礼をすればニコニコし乍ら上野候補生外出の際遊びに来いと言葉をかけられて安心した次第でした。とにかく死刑から無罪になった程嬉しかった次第です。

2) 未亡人志願者なる言葉

前の何号かに将校婦人会を山犬会と言うことを書きましたが、将校婦人とは所謂未亡人志願者です。つまり軍人は名誉の戦死をすることを至上の光榮として居りました。この様な職務の幹部たらんとする者へ嫁にくるわけですから未亡人志願者という別名がつけられておりました。

3) 放屁宴会

甚だ臭い話で恐縮ですが軍隊では麦飯、酒保の「あんぴん」餅、別名迷惑饅頭等何れも放屁の原料となるものばかりです。班内に於ける放屁は自由自在の野放し状態でした。当時は現在のように環境衛生、環境公害などという言葉がありませんでした。何れ班内で単発から連続発軽機関銃・重機関銃或は歩兵砲の音の如く戦場

さながらの状況が展開される訳です。窓を開けた位では済ませません。誰言うとなく放屁1発音付5銭、音無し10銭（2人以上の認定による）と云う内規を作り上げ各自の名前の下に選挙の開票の如く正の字を書き毎週日曜日の朝食後集計して各自より集金の上、一同揃って外出した弘前市内のバー、カフェ等で宴会をやる訳です。当時一人当たり1円50銭あれば結構飲んで食って楽しめた訳です。つまり一人当たり放屁30発分です。

4) 小隊長試験

この頃漸く兵隊らしくなり号令をかけるにも予命と動令が立派に出来るようになり稍々得意の時代でした。岩木山神社周辺百沢附近（何年か前大災害のあった処）で小隊長試験が実施せられ普通の小隊教練から戦斗教練迄実施せられ全員無事合格です。如何にも小隊を指揮してうまく出来れば食事がおいしく睡眠をよくとれる状態でして所謂「発作性兵隊馬鹿症」に罹患して居った訳です。

5) 班内談議つまり軍紀と風紀の差異

夕食を終え夜の点呼までの約2時間この時間は私共にとって最も楽しい時間です。或る二人は将棋、或る者は新聞の碁の批評、又二、三人で何か話題をみつけて論議、これが医師である者の話しかと思われる程でした。誰に言うともなく軍紀とはなにかと考えてみると、つまり軍隊はこの軍紀によって支えられて居る訳です。只中隊の勤務に風紀係と言う職務があつて優秀な上等兵が1週間勤務して中隊内を巡回する訳です。然らば軍紀と風紀の違いは何かと言われても名解答がありませんでした。約1週間皆で全智全能をしづつて漸く答が出来た訳です。

解答 軍紀は臍の上にあるもの

風紀は臍の下にあるもの

これだけは當時百点満点の解答でした。

6) 憎みは深し週番司令殿

軍隊に週番司令、週番副官、週番士官、週番下士官、何々週番上等兵等色々の勤務があります。毎週土曜正午上番、翌週土曜正午下番、の1週間の連続勤務です。このうち週番司令は聯隊長退席後翌朝登庁迄の間聯隊長の職務を代行する重要な職務です。普通部隊では隊内の上席大尉5人で勤務です。6人目の大尉は勤務なしです。戦地派遣部隊の司令部では軍医も主計もこの週番司令勤務がありました。私共幹部候補生時代に週番司令に勤務されたK大尉は新婚早々の方です。土曜から金曜日の朝迄は何事もありませんでしたが、土曜の午前3時になると必ず火災呼集、非常呼集という安眠妨害を計画する人でした。だけれど私達は新婚早々の若い将校が1週間も別居されては生理的現象で頭に血が昇って仕様がないのではないかと眠り乍らも司令殿と御婦人に同情申し上げた訳です。その為古参順序に大尉5人と定めてあったのは矢張りこの辺の事情を考慮して決めたものだろうと想像した次第です。

彼K大尉は大東亜戦争の末期南方戦線で聯隊長として名誉の戦死を遂げられました。

7) 今月で半分の5ヶ月を経過す

今月末を以って10ヶ月の懲役？も半分経過することになり、来月からはマラソンであれば折返点を通過する訳です。

当時の吾々幹候生の申合せ、

半分暮したぞ。長い様で短いもんだ。

皆体に気をつけて、頑張ろう。

御國のため、陛下のため。

そして、

一杯食って、よく眠ろう。

寝る子は育つ。

でした。

内なる外国アメリカ

坂井博毅

良きにつけ悪しきにつけアメリカの総てが日本に大きな影響を与えると云っても過言ではない。

政治・経済はもとより医学の世界においても例外ではありません。しかし、マスコミをはじめとする文献等によるその実体の正しい把握は極めてあると言わざるを得ない。そこから得られたものはむしろ不安だけで真実とは程遠いものが多い。今から5年後とも10年後とも言われる我が国の医師過剰時代に先がけ、すでにその時を迎えたアメリカの開業医の苦悩と実態をこの目で見るべく Los Angeles のマウントサイナイ病院の周辺を訪づれた。

10年前までは15人の産婦人科医が開業して各々が患者を病院に送って検査、手術、分娩をしていたのが何と今では120名の産婦人科医が犇めいて医師一人当たりの患者数は必然的に激減した。そのため出来るだけ自分のクリニックで高収入を上げるべく周到に、注意深く、患者を充分に納得させ、実に堂々と開業している。Southern California Womens Medical Centerの院長で南カリフォルニア大学医学部ロスアンゼルス分校（UCLA）の臨床教授Robert S. Scott M.D.とWalter Kwock M.D.の二人のOfficeの見学と長時間に亘るセミナーを受けた。一步も二歩も進んだアメリカの開業法特に微に入り細にわたる Informed Consent に使用するパンフレットや炭酸ガスレーザをはじめ多くの医療機械、卒業後教育の実際を見聞くに及び多く得るものがあった。これについては後日紹介することとしてそれに先がけて Court of Los Angeles Department of Chief Medical Examiner-Coroner を視察し、ケネディ大統領やマリリンモンロー、最近ではウィリアムホールデン等多くのアメリカの要人、そして我々が訪問したその日の朝にナタリーウッドの検屍解剖をした日

本でも著明なトマス・野口長官（日本医大昭和25年卒）訪問記を今回は記載する。

氏は13年間の長きに亘り当Coronerの長官を務め、日本人では全米で一番地位の高い官職に就いた人と言われている。長官の話によると、Los Angeles 郡は人口約8百万人で1年間に約5万人が死亡するそうである。このうち1万7千人が他殺、自殺、交通事故死、事故死、変死などのため行政解剖、保障解剖が必要であるとの事である。我々を震え上がらせ、慄然とさせたのは我々が視察中にガンで射たれ白布に覆われ、ターキーのように二本の足だけを出した黒人やメキシコ人、白人の血にまみれた死体が死体運搬車にのせられ2体づつ続々入院する光景であった。しかも剖検室でみると死体の大部分が我々があまり見た事のない銃殺によるもので、まさにこの世の出来事とは思えない程残酷で肌に粟を生じせしめる現実であった。我々が訪米する直前の11月18日の白昼 Los Angeles の中心街で日本人観光客の三浦和義さん（34才）夫婦が拳銃強盗にあい、妻の一美さんが意識不明の重症を負った直後だけに身の毛のよだつ思いであった。週刊 U.S. Japan Business Newsによれば三浦婦人の手術料と入院費（11月18日～12月2日迄15日間）は1万9千5百ドル、日本円にして4百万円を軽く超えるとの事で、今後も約3千万円の入院費が必要だそうだ。低収入にあえぐ最近のどこかの医師と違い高額医療費を受けとる米国の医師を羨しくもないでもないが、災難を我が身において考えると恐い気がする。同紙によればこの日もアメリカではごくごく普通の日であり、約50人の国民が射殺されたそうだ。これは極めて平均的数値であると報道されている。ミシガン大学人口問題研究所のファーレイ教授は「癌、心臓障害、炎症等による死亡率は医学者の努力により引き下げる効果は出て

来たが銃による死亡率は増加の一途にある。」と
なげいている。

今年の4月14日レーガン大統領を狙撃した凶器の22口径、通称「サタディナイト・スペシャル」はアメリカで最も使用頻度の高い拳銃で、その語源は犯罪者の犯罪欲求が週末をひかえてグッと上昇し、よって土曜日の夜にこれによる犯罪発生率が集中していることから来ていると言われる。その価格は1台45ドルだが時には35ドルから30ドルで購入できると言われている。日本のモデルガンの値ではなかろうか。ロスアンジェルスにおける強盗、窃盗などの日本人旅行者の被害は6ヶ月間で約72件（毎月12件）で総額96,018ドルにのぼったとの事である。大統領が狙撃され、銃による死亡率上昇の一途にあるアメリカでなぜ今だその銃の法的取締りがないのかをDr Thomas Noguchi及びDick Wilson カルフォルニア連邦警察署長にたづねた。「西部開拓時代からの伝統もさることながら、個人の生命を守るために銃をもつ自由を奪われることは絶対に許せないと言う国民感情があるためだ。」との事で両氏も又寝室には3丁の銃を置いているとの事だった。しかし、言外に自由主義の名のもとに白人以外の黒人をはじめメキシコ人、中国人そして日本人その他の有色人種を含む多種多様の人種を受け入れ寛容し忍耐しているアメリカの苦しみは「今、皆さんに見ていただいているこの現実の作業が我々の仕事ではなく、これら多くの遺体の中からその苦しみやもがきを察知し、原因を追求しその予防法を考え州や政府に法律を提案して社会に還元し、自由主義を守りながらいかに明日の良い社会を作るかを考えるのが当Cornerそして私達の仕事だと思う。」と最後に述べた長官の言葉は深く心の中にしみ込んだ。昼食はその日の朝ナタリーウッドが亡くなったマリーナ・デルレのヨットハーバーでとり、午後はDr Scott のOfficeを見学し少し気分をとりなおして、ショッキングなセミナーの第1日は

終った。身も心も震えあがるこんな事で団体行動以外はホテルから一步も出る勇気が出ず17階の窓から眺めるLos Angeles のDown town の美しい明りをながめながら妻と二人静かな夜を迎えた。America the wonderful。



編集後記

編集子は、編集などということについては知識も経験もなく、全くの素人であるので、本誌は、たとえ小冊子であるとはいえ、その編集は、編集子にとては気がかりなことであった。

あわただしい年末、やっと編集が終えたので、ホッとしたところである。

○
今回の原稿は、上野会長と坂井先生とお二人のご執筆であり、上野会長さんの毎回のご執筆は読んで楽しく、ご多忙の時間を割いてのご健筆に対しては、驚嘆と共に敬服の念を禁じ得ない。

また坂井先生の、アメリカの開業医の苦悩と実態などの生々しい紹介は、吾々にとって大いに参考となる貴重な読み物であると思われ、感謝に堪えない。

○
会員各位が原稿執筆を他人事とせず、続々と寄稿し、編集子はその選択に戸惑うようになることを願うものである。

○
昭和56年も余すところあと数日となった。会員各位、ご健勝にて、よきお年越し、よき新年を迎えられるようお祈りする次第である。

(T)